

セットアップガイド
～ドライバ編～
2021年2月10日版

JIP テクノサイエンス株式会社

<目 次>

1. はじめに.....	1
2. セットアップ作業を始める前に.....	1
3. 運用環境.....	1
3.1 ネットワーク運用.....	1
3.2 スタンドアロン運用.....	1
4. ドライバ.....	2
4.1 インストール.....	2
4.2 アンインストール.....	3
5. 参考.....	4
5.1 Windows Defender ファイアウォール.....	4

お問い合わせ

弊社ホームページに「お問い合わせフォーム」をご用意しております。

お気軽にお問い合わせください。

◆技術的なお問い合わせ

<https://www.jip-ts.co.jp/contact/support.html>



1. はじめに

このセットアップガイドは、ドライバのインストール・アンインストール方法を記したマニュアルです。

2. セットアップ作業を始める前に

- ・実行しているアプリケーションはすべて終了してください。
- ・ネットワーク運用でライセンスサーバの場合、またはスタンドアロン運用の場合には、パソコンにプロテクトキーが正しく接続されていることを確認してください。
- ・作業を行う場合は、必ず「**管理者権限**」で行ってください。

3. 運用環境

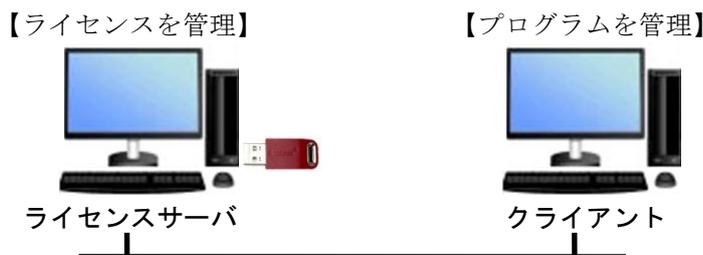
運用環境には、ネットワーク運用とスタンドアロン運用の2つがあります。

運用の切り替え方法については、セットアップガイドの「JSP ユーティリティ編」を参照してください。

3.1 ネットワーク運用

ネットワーク運用とは、ネットワークを使用して、複数のパソコンで運用する方法です。

※ネットワークで運用する場合、事業所内に限ります。事業所間をまたがった使用はできません。



■ ライセンスサーバ

ライセンスを管理するパソコンを**ライセンスサーバ**と呼びます。

ライセンスサーバでは実際にキーを接続するだけでなく、ライセンスサーバ上でクライアントと通信を行い、ライセンスの管理を行う**ライセンスマネージャ**を実行します(ライセンスマネージャが起動していないとプログラムを起動することができません)。

※ライセンスサーバはネットワークサーバである必要はありません。

■ クライアント

プログラムをインストールし運用するパソコンを**クライアント**と呼びます。

3.2 スタンドアロン運用

スタンドアロン運用とは、ネットワークを使用せず、パソコン単体で運用する方法です。

【ライセンス&プログラムを管理】



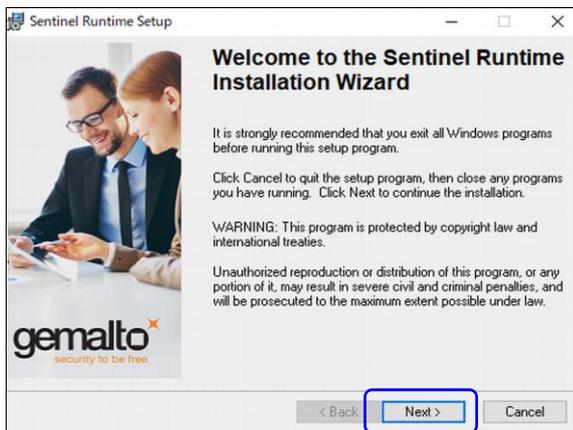
4. ドライバ

プロテクトキーを接続するパソコンに、Sentinel Runtime をインストールします。
通常 1 回だけインストール作業を行います。

◆運用環境によるインストールの必要有無

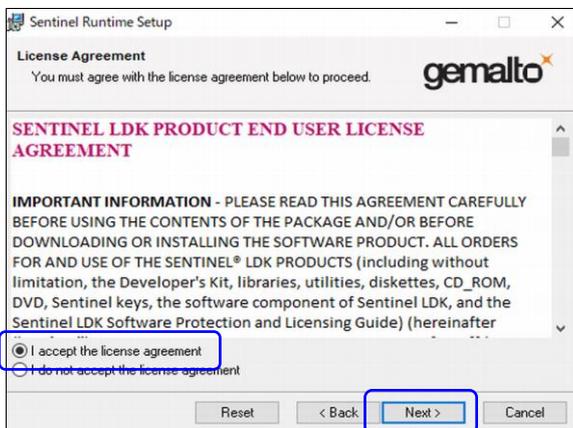
運用環境	対象パソコン	インストール有無
ネットワーク運用	ライセンスサーバ	有
	クライアント	無
スタンドアロン運用	単体で運用するパソコン	有

4.1 インストール



①

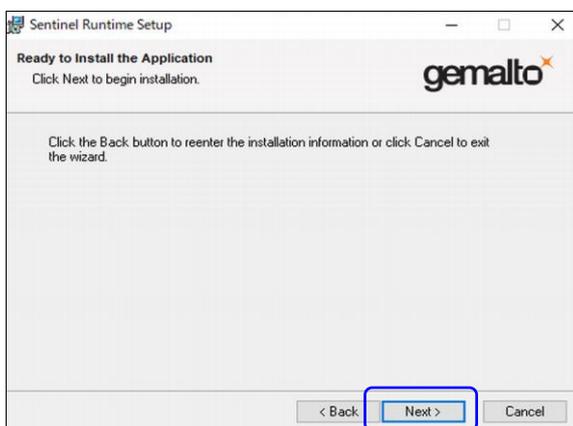
Sentinel Runtime をインストールします。
「Next>」ボタンを押してください。



②

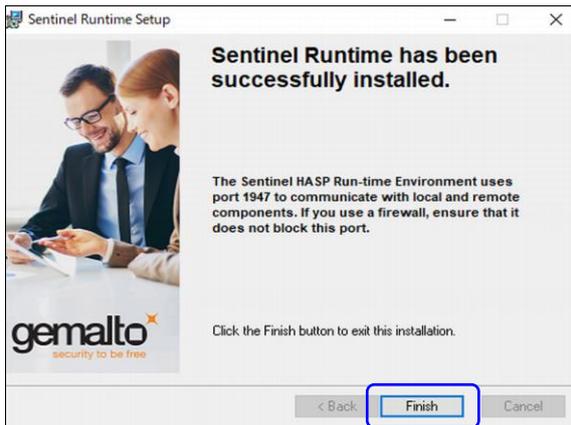
許諾内容に同意するか選択し、「Next>」ボタンを押してください。

- ・「I accept the license agreement」 同意する
- ・「I do not accept the license agreement」 同意しない



③

[Next>]ボタンを押してください。



④.

インストールは完了しました。
「Finish」ボタンを押して終了してください。

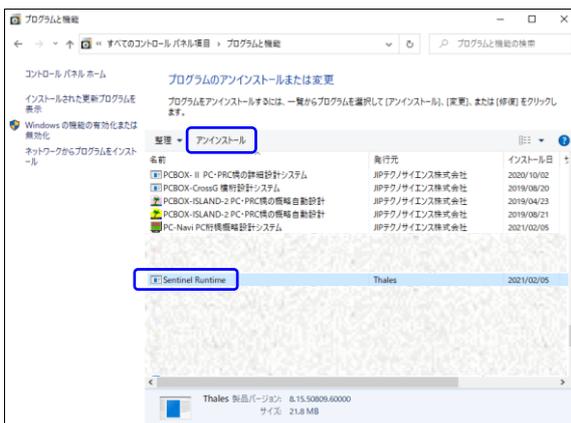
4.2 アンインストール

Sentinel Runtime をアンインストールする場合、以下の手順で行ってください。



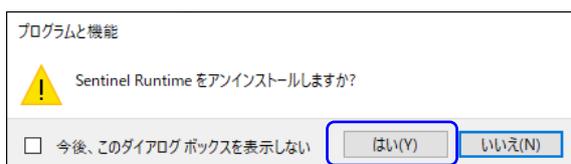
①.

[コントロールパネル]→[プログラムのアンインストール]を選択してください。



②.

「Sentinel Runtime」を選択し、「アンインストール」を押してください。



③.

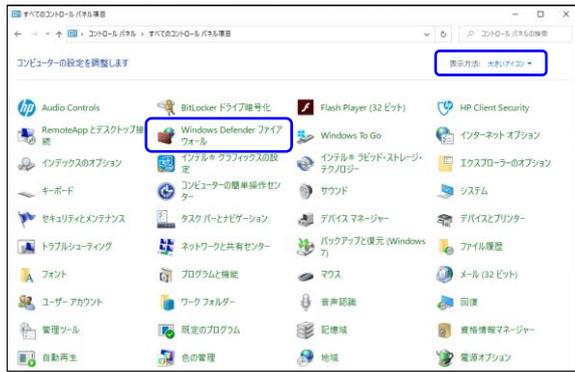
アンインストールする場合は、「はい(Y)」ボタンを押して実行してください。

5. 参考

5.1 Windows Defender ファイアウォール

Windows Defender ファイアウォール機能によりプロテクトキーとの通信が遮断され、弊社ソフトウェアが起動できない場合があります。その場合には、ライセンスマネージャが使用する通信ポート(475番)を使用可能にする設定を行うことでプロテクトキーとの通信ができるようになります。

Windows Defender ファイアウォールに通信ポートを追加する場合、以下の手順で行ってください。



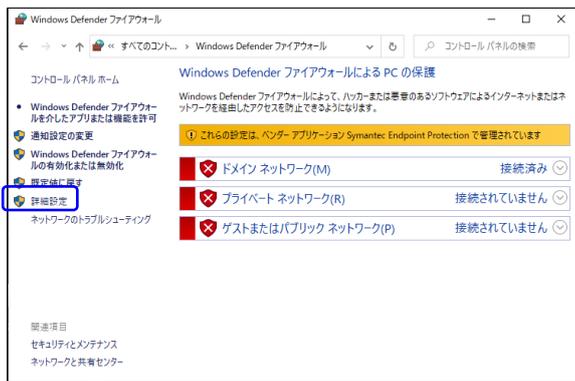
①.

[コントロールパネル]→「Windows Defender ファイアウォール」を選択してください。



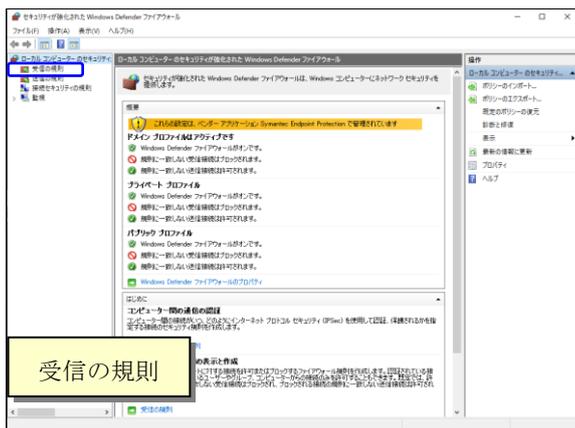
CHECK

画面右上の「表示方法」を『カテゴリ』から『大きいアイコン』または『小さいアイコン』に切り替えると「Windows Defender ファイアウォール」が表示されます。



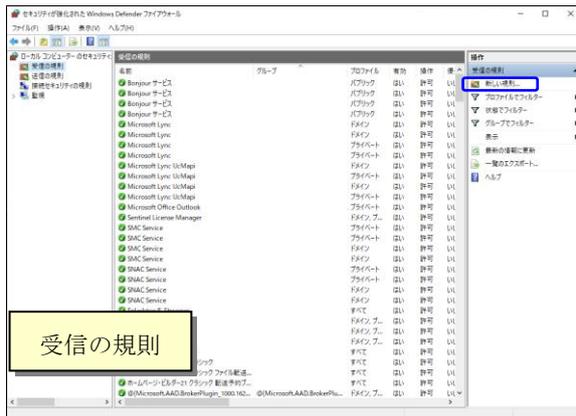
②.

画面左の「詳細設定」を押してください。



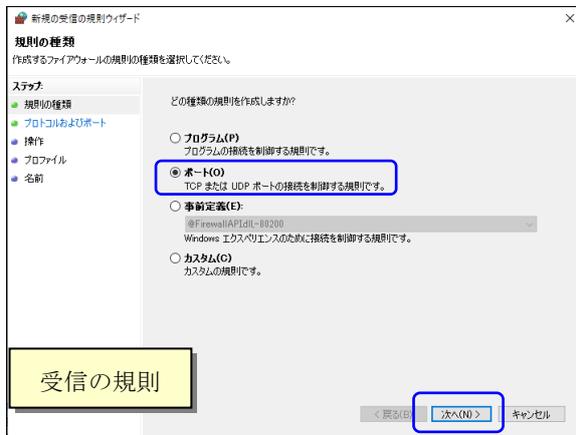
③.

画面左の「受信の規則」を押してください。



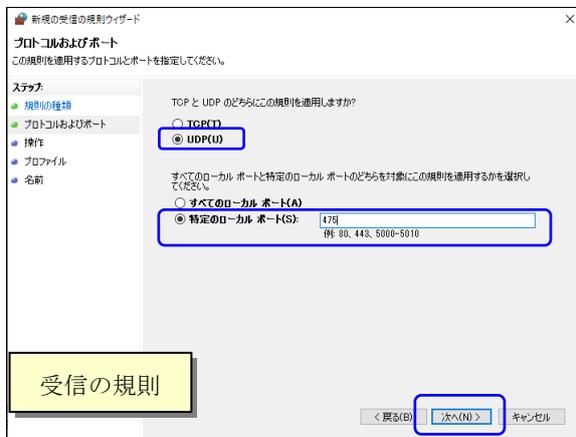
④.

画面右の「新しい規則...」を押してください。



⑤.

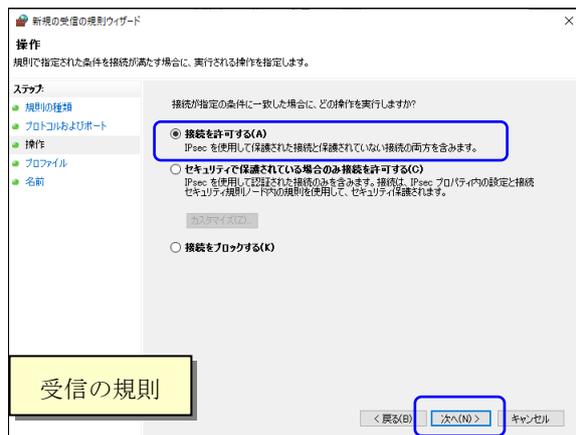
作成するファイアウォールの規則の種類を選択します。
「ポート(O)」を選択して、「次へ(N)>」ボタンを押してください。



⑥.

プロトコルとポートを指定します。
プロトコル：「UDP(U)」
ポート：「特定のローカルポート(S)」

を選択して、『475』と入力し、「次へ(N)>」ボタンを押してください。

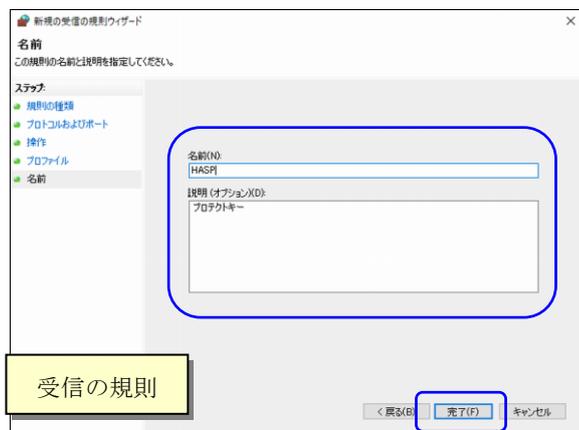


⑦.

操作の実行方法を指定します。
「接続を許可する(A)」を選択し、「次へ(N)>」ボタンを押してください。



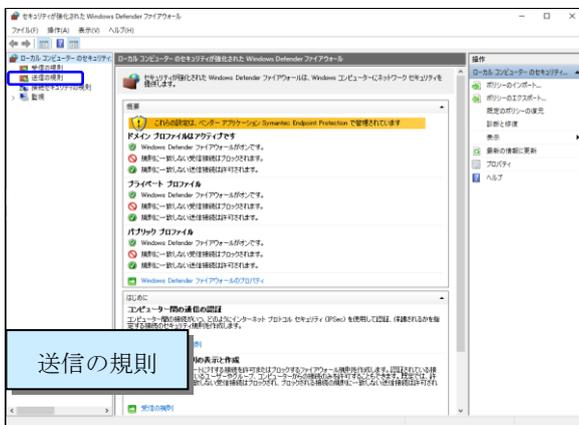
⑧.
プロファイルを指定します。
「次へ(N)>」ボタンを押してください。



⑨.
「名前(N)」 「説明(オプション)(D)」に任意の名称を入力し、「完了(F)」ボタンを押してください。

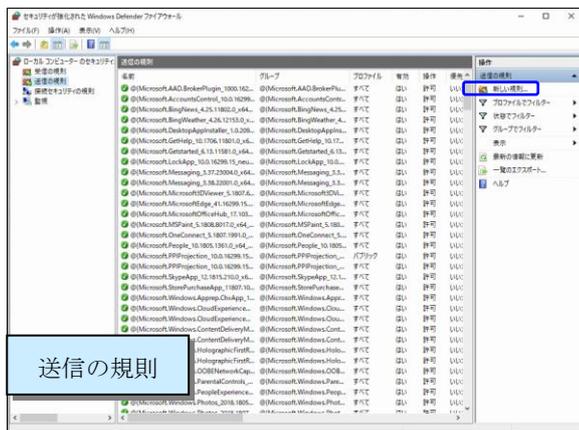
例：名前(N) = HASP
説明(オプション)(D) = プロテクトキー

CHECK
お使いのパソコンにウイルス対策ソフトがインストールされている場合もプロテクトキーとの通信が遮断される場合があります。その場合には、同様な作業を行ってください。



⑩.
③の画面に戻ります。
画面左の「送信の規則」を押してください。

CHECK
「受信の規則」と同様に設定を行います。

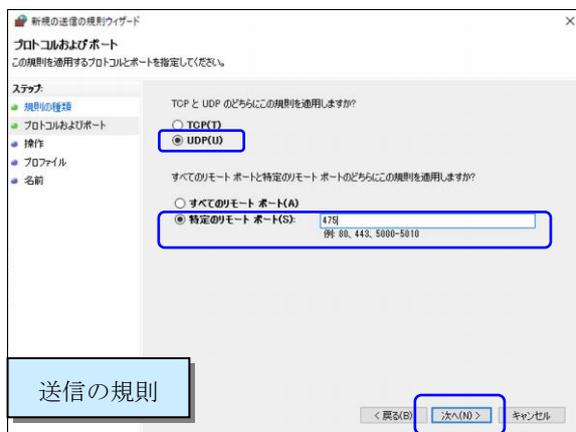


⑪.
画面右の「新しい規則...」を押してください。



⑫.

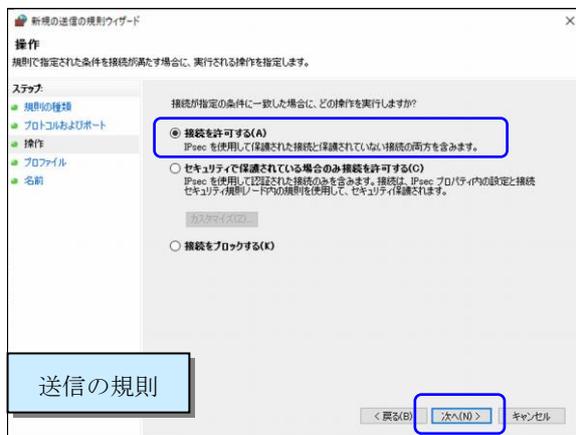
作成するファイアウォールの規則の種類を選択します。
「ポート(O)」を選択して、「次へ(N)>」ボタンを押してください。



⑬.

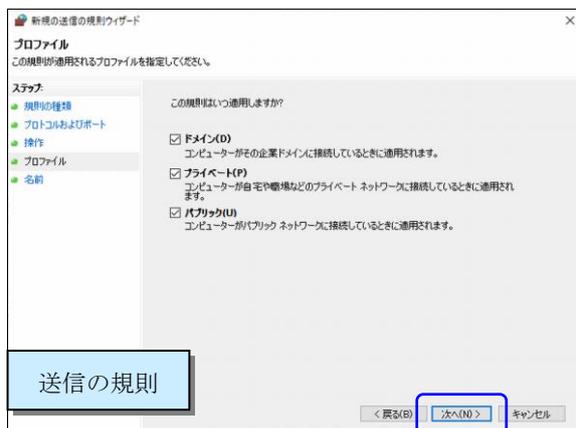
プロトコルとポートを指定します。
プロトコル：「UDP(U)」
ポート：「特定のローカルポート(S)」

を選択して、『475』と入力し、「次へ(N)>」ボタンを押してください。



⑭.

操作の実行方法を指定します。
「接続を許可する(A)」を選択し、「次へ(N)>」ボタンを押してください。



⑮.

プロファイルを指定します。
デフォルトのまま「次へ(N)>」ボタンを押してください。



⑬

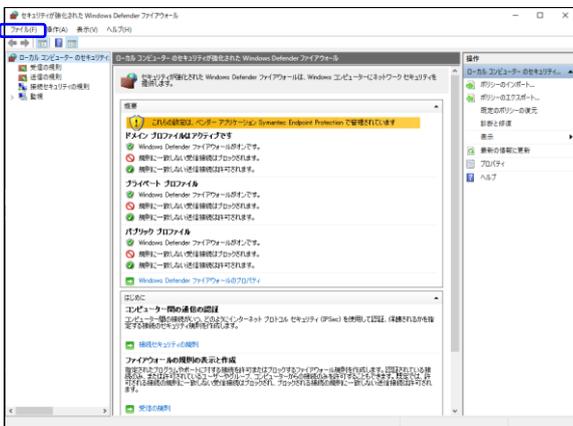
「名前(N)」 「説明(オプション)(D)」 に任意の名称を入力し、「完了(F)」 ボタンを押してください。

例：名前(N) = HASP
説明(オプション)(D) = プロテクトキー



CHECK

お使いのパソコンにウイルス対策ソフトがインストールされている場合もプロテクトキーとの通信が遮断される場合があります。その場合には、同様な作業を行ってください。



⑭

⑬の画面に戻ります。

「ファイル(F)」の「終了(X)」を選択して終了してください。